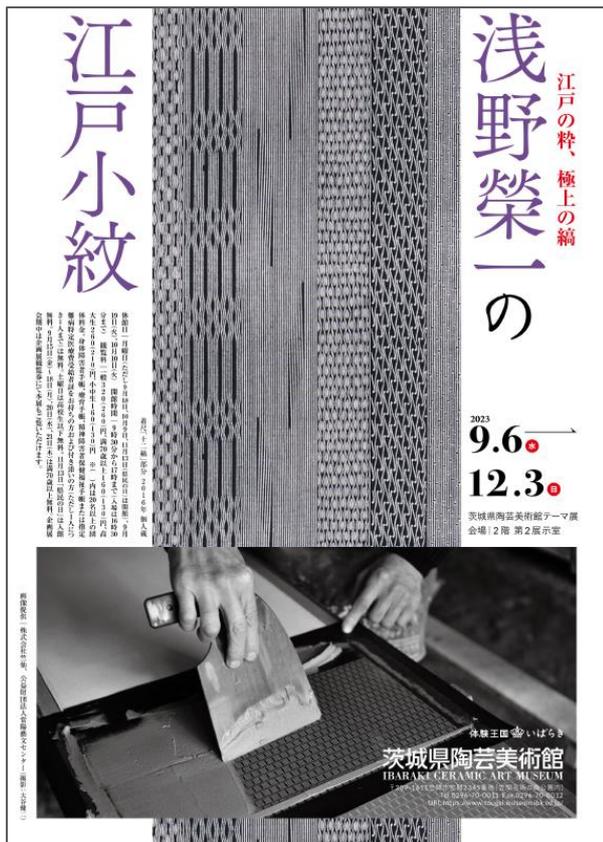


江戸の粋、極上の縞 **浅野榮一**の江戸小紋

会期：2023年9月6日(水)～12月3日(日)

展覧会概要

茨城県美浦村に在住の染の名手、^{あさのえいいち}浅野榮一（1946年生まれ）
による、江戸小紋の^{しまぞめ}縞染作品を中心とする展覧会です



美浦村で祖父の代からの染めの仕事を受け継ぐ浅野榮一は、江戸小紋、特に縞染において国内屈指の技術をもち、高い評価を受けてきました。

手作業による、緻密な工程の繰り返しにより生み出された縞染の作品は、整然とした中にも、手わざのわずかなゆらぎがもたらす趣や品格にあふれ、見る人を魅了します。

本展では、長年、技の向上に真摯に向き合い、現在も優れた作品を生み出し続ける浅野榮一の業績を、着物、着尺などの作品約30点で紹介します。

※着尺(きじゃく)・・・大人用の1枚の着物を仕立てられる分の幅と長さをもつ反物のこと。長さ約13メートル。

見どころ

・貴重な手染による、多彩で品格あふれる縞染作品(着尺と着物)を豊富に展示

・浅野榮一が使う人間国宝の故・児玉博作の縞の型紙を複数紹介

期間限定

椎名林檎さん、宮本浩次さんが着用した浅野榮一の染による着物を展示（9月26日(火)～10月29日(日)）

問い合わせ先

茨城県陶芸美術館
〒309-1611 茨城県笠間市笠間2345(笠間芸術の森公園内)
TEL:0296-70-0011 FAX:0296-70-0012

●展覧会担当：学芸課 副主任学芸員 名村実和子 e-mail:namura.miwako@post.ibk.ed.jp

●広報担当：企画管理課 主任学芸主事 塚田 巧 e-mail:kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

開催概要

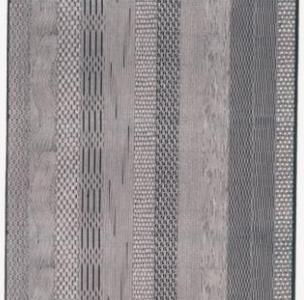
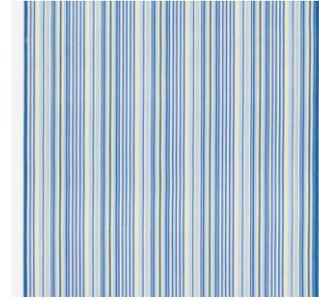
展覧会名	江戸の粋、極上の縞 浅野榮一の江戸小紋
会期	2023年9月6日(水)～12月3日(日)
会場	茨城県陶芸美術館 2階 第2展示室
主催	茨城県陶芸美術館
画像提供	株式会社竺仙、公益財団法人常陽藝文センター
開館時間	9時30分～17時 (入場は16時30分まで)
休館日	月曜日(ただし9月18日、10月9日、11月13日(県民の日)は開館) 9月19日(火)、10月10日(火)
観覧料	一般320(260)円 70歳以上160(130)円 高大生260(210)円 小中生160(130)円 ()内は20名以上の団体料金。土曜日は高校生以下無料。 11月13日(県民の日)は入館無料。 9月15日(金)～18日(月)、20日(水)、21日(木)は満70歳以上の方無料。

出品作品

浅野榮一の染による着尺約25点、着物約10点 ※着物は展示替あり
浅野榮一が使用する、児玉博(1909-1992、重要無形文化財「伊勢型紙」保持者)の型紙約8点

出品作品画像

下記の作品画像は、広報担当のe-mailアドレスまでご連絡いただけましたらデータをお送りいたします。

広報用画像(チラシ画像)	※作品画像を掲載する場合は以下のキャプションを掲載してください。		
	 着尺「十二縞」2016年 個人蔵	 着尺「三色入唐棧縞」2016年 個人蔵	 着物「雲海」1996年 個人蔵

期間限定：椎名林檎さん、宮本浩次さん着用の着物を展示！

2018年の第69回NHK紅白歌合戦において、楽曲『獣ゆく細道』のパフォーマンスの際、椎名林檎さん、宮本浩次さんが着用したのが、浅野榮一の染による「十二縞」の着物でした。「十二縞」とは、十二種類の様々な縞が並ぶ図柄で、揃いの着物で出演予定であることを聞いた浅野は、黒の染め上がりの色にわずかでも差が出ることはないよう、二本の着尺の染の工程を揃えて同時に制作しました。本展に際し、浅野榮一の業績はもとより、江戸小紋の粋、縞の魅力伝える作品として、著名なアーティストが大きな舞台上で実際に着用した2点の着物を並べて紹介します。

●展示期間：9月26日(火)～10月29日(日)

関連企画

●浅野榮一講演会「縞に懸ける思い」【予約優先(定員90人)】

<予約フォームQR>

内容：制作のこれまでや縞へのこだわりなどについて作家本人が講演します。

空き状況により当日参加可。

日時：10月21日(土) 13時30分から15時まで

会場：当館1階 多目的ホール 参加費：無料(要常設展観覧料)



●「粋」な和装で美術館にGo！

本展会期中に限り、着物もしくは浴衣でご来館されると、割引価格(団体価格)にて企画展ならびに常設展をご観覧いただけます。